

★未来を生きる力を子どもたちに!  
「こどものアトリエ ニキッズ にちなん」  
代表 金森 弓束さん(日野郡日南町多里)



「こどものアトリエ ニキッズ にちなん」は、2013年に発足した、子どもと親のための遊びの場です。月に2回、1歳から小学生までを対象に、自由に絵を描いたり、自然の中で遊ぶ体験を通じて、健やかに成長する力を発揮できるようにサポートする取組を行っています。

代表の金森さんは、京都生まれ京都育ち、大学では児童文学を専攻、その後、静岡県に移住し自由画(子どもの個性や創造性を尊重し、欲するままに描かせる絵画)による児童教育に出会い、以来、子育て支援の活動を行ってきました。静岡県では、自然を活かした遊びを求めて多くの親子が都会から訪れることに驚いたそうです。

2013年4月に、縁あって日南町に移住してから、子どもが絵を描く会の立ち上げを思い立ち、多里まちづくり協議会をはじめ地域の皆さんの協力により、6月には活動を開始し今年で9年目です。

ニキッズの拠点は、廃校となった小学校の体育館や公園など。子どもたちは、カラフルな水彩絵の具で白い画用紙に自由に描いたり、自然の中で川遊びをしたり、のびやかに活動しています。

金森さん「子育て中の親にとって、子どもの気持ちを理解することは大切です。子どもたちは、自由に絵を描くことで、心を表現したり、ストレスを発散することもできます。ニキッズでの活動を通じて、生き抜く力を培ってほしいと願っています。」

※ニキッズの活動は、適切な新型コロナウイルス感染症の感染予防対策をとった上で行われています。

〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



日南町は自然が多く、子育ての環境に恵まれています。ここで育った子どもたちは、社会の荒波の中でも自分の方で生きていく力を養うことができると思います。



子どもの居場所を作ります。



自然の中で絵を描く。

新型コロナウイルス  
感染症

新型コロナウイルス感染症は、正しい情報に基づき対策を進める必要があります。あなたの疑問に、鳥取大学医学部副学部長 ウィルス学分野 景山誠二教授がお答えします!



Q ワクチン接種が2回完了したら、感染対策は不要ですか?

A 今後、第6波がくる可能性がありますので、できる感染対策は全て行いましょう。

ワクチンは、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策として最も有効ですが、完全に感染が防げるわけではありません。不織布マスクの正しい着用、ソーシャルディスタンスの確保、換気の徹底、流水と石鹸等による手洗いなど、感染対策としてできることは全て行いましょう。

11月に新しく発見された変異株であるオミクロン株が日本国内でも確認されましたが、基本的な対策はこれまでと変わりません。人の交流が活発になる年末年始も、一人一人がしっかり対策をとってください。



Q ワクチンの3回目接種は受けた方がよいのですか?

A 3回目接種(ブースター)は、特に65才以上の方に高い効果が認められています。

世界で最もワクチン接種が進んでいるイスラエルでブースターを行ったデータを分析したところ、65才以上の方は、最も高い効果が得られたことが明らかになりました(CDC:アメリカ疾病予防管理センター発表)。

また、アメリカ合衆国保健福祉省食品医薬品局(FDA)は、65歳以上の方と、50歳から65歳までの免疫不全の方や基礎疾患のある方、患者と接する医療関係者へのブースターを推奨しています。

特に高齢者の皆さんは、2回の接種では十分な抗体を長期間維持できない傾向にありますので、今後、行政から3回目接種のお知らせが届いたら、かかりつけ医と相談の上、接種をすることをお勧めします。

ブースターの最大の目的は重症化を防ぐことです。上記以外の方も、各人がメリットとリスクのバランスについて考慮し、国や自治体からの信頼できる情報に注意しながら検討してください。

3回目  
接種に  
ついて

2回目接種から概ね8カ月以上経過した方を対象に、全国の自治体で3回目接種を行うことが決定されました。医療従事者をはじめ、重症化リスクの高い高齢者の方や基礎疾患のある方などに対しては、特に接種が推奨されています。日野郡3町も順次接種を進めていく準備を整えていますので、各町からのお知らせをお待ちください。



〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



米子市文化財団  
高橋統括調査員

「福長の遺跡を調査したところ、これまで伯耆地域では見たことのない構造の製鉄炉が見つかりました。他地域と人や技術の交流があったことが想像できます。」

◆中世・近世のたたら遺跡の  
発掘調査が行われました

ふくながし 日野町福長下モノ原遺跡 / さいのはら オノ原たたら跡

たたら製鉄は、砂鉄と木炭を原料とする製鉄法で古くは平安時代から行われていたと言われていました。我国屈指の良質な砂鉄に恵まれた日野郡は鉄の一大産地で、これまでも、近世から近代にかけての遺跡が数多く発見されてきました。今回、新たに発掘調査が行われた二つの遺跡は、それぞれ中世と近世のもので、日野郡のたたら史を知る上で貴重な遺跡であることがわかりました。当時の住民の息吹が感じられるロマンある発見を御紹介します。

福長下モノ原遺跡

日野町福長で発見された、鎌倉時代から室町時代のたたら製鉄炉跡では、製鉄炉1基、鉄滓(てっさい)\*1を埋納した土坑(どこう)1基などが見つかりました。製鉄炉の両側には、風を送る竈(ふいご)の土台(竈座:ふいござ)の縁に土留め用の石が並べられており、中国地方では初めて見られる形式であることがわかりました。

更に深く掘り進めると、地下構造が現れました。湿気を避けるため、黒ボク土の上に砂を敷き、さらにその上に粘土を貼り、乾燥させて乾燥させる工程が4度繰り返して作られた「本床(ほんど)状遺構」\*2となっています。

その両横には、「小舟(こぶね)状遺構」と呼ばれる溝があり、中には製鉄炉の炉壁の一部が詰められています。備中・安芸の影響を受けながらも日野郡独自の構造であることが窺える貴重な発見となりました。

\*1 製鉄時に生じる不純物 \*2 江戸時代以降の「大舟(おおぶね)状遺構」に似た形状の遺構



地下構造の上部



地下構造の下部

※これらの遺跡は、道路や橋梁工事によりコンクリート擁壁で覆われ、今後は見ることはできません。

〒日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



日野町  
教育委員会事務局  
若林主任

「オノ原では、たたら場の跡を断面で見ることができ、興味深く思いました。」

オノ原たたら跡

日野町下菅で昭和58年に、新旧2基の床釣(とこつり:製鉄炉の地下構造)が同じ場所に造り替えられた近世の遺構が発見されましたが、今回初めて詳しい調査が行われました。

床釣のひとつからは18世紀前半頃の陶胎染付(とうたいそめつけ)\*が発見され、床釣がそれ以降のものだと判明しました(①)。焼させた土と鉄滓を交互に積み重ねて作られています。

もう一つは、砂と鉄滓を混ぜた層と、その上に、焼土と砕いた花崗岩を混ぜた層を重ねた2重構造となっており、19世紀前半のものだと推定されます(②)。

新しい時代の層の方が複雑な構造になっていることから、たたら技術の進歩を知ることができます。

この遺構からは、キセルの吸い口や陶器など、たたらに携わる人たちが使用していたと思われる品々も出土し、当時の生活を推測することができます。

\*17世紀に出現した九州の陶器で、18世紀に入ってから本格的に全国に流通しました。



キセルの吸い口

鳥獣被害対策

トレイルカメラの話①

日野郡鳥獣被害対策  
実施隊 木下卓也



畑を荒らす動物の見極めなどに大変役に立つのがトレイルカメラ(センサーカメラ)です。最近ではホームセンターでも販売しており、インターネット通販では5千円以下の物もあるので、個人でも購入しやすくなりました。でもどれを選べば良いのか分からなくなるくらい、すごい機種数があります。某大手通販サイトでは100機種以上あります…。そこで、トレイルカメラの構造や機能、選ぶポイントなどを紹介していきます。

トレイルカメラとは動物の観察などに用いられるカメラのことで、無人の状態でも撮影できる自動性と屋外に設置しても壊れない防水性と耐久性が必要です。構造としては、動物検知センサー、カメラ、赤外線ライトが前面についているシンプルな機械です。赤外線センサーが人や動物の動きを検知するとカメラが作動して撮影が始まり、任意の時間後に撮影を停止します。撮影データはSDカード等に保存され、自宅のテレビやパソコンで見ることができます。

次回は「選ぶ時のポイント」です。



〒日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399